

## 引き続き お祈りとご支援をお願いします！

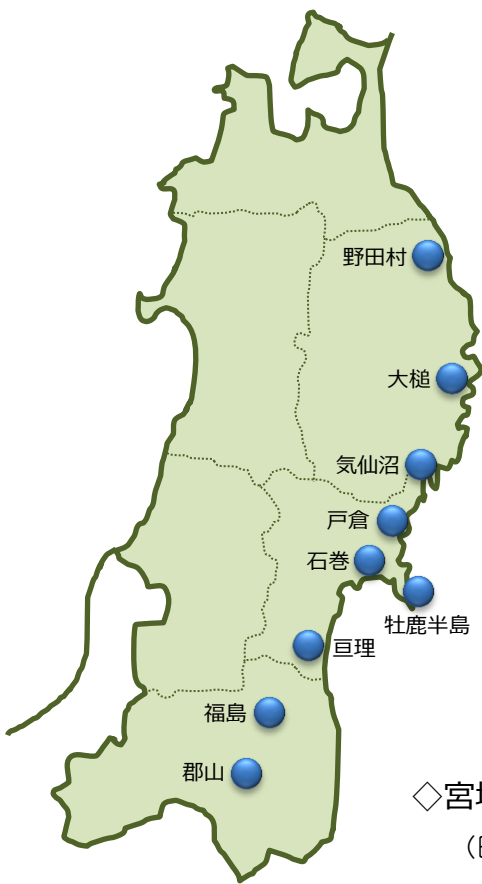
主の御名を賛美いたします。日頃から、東日本大震災被災地や東北の教会を覚えてお祈りとご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

東日本大震災から3年8ヶ月が過ぎ、現地では被災状況によって復興の格差が生まれています。仮設住宅を出た方、出られない方、農業や漁業を再開して軌道に乗つつある方、そうでない方…。また、その復興の速度も地域によって全く異なります。そして、放射能汚染の課題は現在進行形で続いており、より一層、目に見えないものに目を注ぐ姿勢が求められています。

私たちは、万事を益としてくださる主を信じ、被災された方々と共なる歩みをこれからも継続します。どうか、引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。以下に現在継続中の活動と、鈴木勉兄（鮫教会）の証しを紹介します。



苦難の中から主に助けを求めて出直し、主は彼らを苦しみから救ってくださった。主はまっすぐな道に彼らを導き、人の住む町に向かわせてくださった。  
詩編 107: 6~7



### ◇岩手県野田村支援（仮設住宅支援）

（青森バプテスト教会、カルバリーバプテスト教会、小松ヶ丘伝道所、三沢バプテストキリスト教会、八戸バプテスト教会、鮫バプテスト教会、北海道連合の諸教会などの協働）

### ◇岩手県大槌町安渡支援（仮設住宅支援）

（盛岡バプテスト教会、他）

### ◇岩手県大槌町小錠支援（仮設住宅支援）

（盛岡バプテスト教会、郡山コスモス通りキリスト教会、山形キリスト教会他）

### ◇宮城県気仙沼支援（仮設住宅支援）

（八戸バプテスト教会、他）

### ◇宮城県南三陸町戸倉支援（学習支援）

（日本バプテスト仙台基督教会、他）

### ◇宮城県石巻市元浦屋敷支援（仮設住宅支援）

（大富キリスト教会、他）

### ◇宮城県石巻市牡鹿半島（荻浜・給分浜・牧浜・鮎川・月浦）支援（仮設住宅、在宅支援）

（日本バプテスト仙台基督教会、大富キリスト教会、南光台キリスト教会、仙台長命ヶ丘キリスト教会などの協働）

### ◇宮城県巨理町・宮前仮設住宅支援（仮設住宅、在宅支援）

（仙台長命ヶ丘キリスト教会、他）

### ◇福島県郡山市緑ヶ丘仮設住宅支援（仮設住宅支援）

（郡山コスモス通りキリスト教会、山形キリスト教会他）

### ◇福島県しのぶ台仮設住宅支援（仮設住宅支援）

（福島旭町キリスト教会、他）



巨理町宮前



大槌町小錠



牡鹿半島



大槌町安渡



3.11を覚えてお配りしたお花



野田村



しのぶ台

※各教会・伝道所に「現地支援委員会 活動報告 DVD vol.1」をお送りしておりますのでご活用ください！



鮫バプテスト教会 鈴木 勉

私の通っている鮫教会が建てられている鮫町は青森県の南の端にあって、昔からの風習が色濃く残る、人口約 1 万人の小さな港町です。教会堂は海岸から約 300 メートルのところにあつて、会堂の二階の窓からは海が見え、海の色や波の様子から季節の変化を感じることが出来ます。

2011 年 3 月 11 日の午後 2 時 46 分、八戸市はマグニチュード 9 の地震に襲われ、その地震の揺れが収まった後の第一波の津波に続いて、午後 5 時頃には高いところで 8 メートルを越す大津波が八戸港を襲いました。この津波で、八戸港を守る防波堤が倒壊したほか 600 本以上のコンテナやたくさんの乗用車や漁船が流されたり沈没したりしました。また、海岸沿いに建っていた工場や倉庫などが損壊したほか沢山の会社事務所や住宅が流され、天井まで波をかぶりました。そのために倒産した会社や営業再開のメドすら立てられない状況の会社がまだまだ多くあり、津波で被災した工場が廃墟のように建っています。2014 年 9 月現在、震災前の売り上げにまで回復した八戸市内の水産加工会社は全体の約 20%にとどまっています。この津波によって私達の鮫教会でも壮年会員が勤務する会社事務所や工場そして教会員の親戚の家が壊滅的な被害を受け、会社や工場は一時営業停止や操業停止に追い込まれ、被害に遭った人達の会社は仕事の現場が一時八戸港から青森港に移ったり、他の会社の事務所を間借りしたり、プレハブの仮事務所に移ったりしました。

しかし八戸の震災による被害は同じ東北の岩手・宮城・福島の方々の被害に比べればまだ小さく、教会員で「今私達に何が出来るのか、何をしなければならぬのか」と祈り合い話し合った結果、岩手県野田村の仮設住宅への訪問ボランティア活動をさせて頂くことになり、八戸教会・三沢教会・青森教会そして北海道連合の先生方や兄弟姉妹とご一緒に毎月第三金曜日に野田村に行かせて頂いております。今年 10 月で 38 回目のボランティア活動となりました。

野田村仮設住宅訪問ボランティア活動は礼拝で始まり礼拝で終わります。八戸から野田村までは車で約 1 時間半の道程です。雪の心配の無い春から秋までの期間は良いのですが、雪が降る冬期間の慣れない道路の運転は非常に心細いものです。しかし、野田村に行く前後の日が大荒れでも不思議とその日だけは晴れるのです。私はこのような時に神様のご臨在をあらためて強く感じさせられております。

活動は、全国の諸教会・伝道所の皆様から贈られたお菓子や参加教会で用意した食べ物を持参する「お茶会」がメインです。初めの頃はぎこちなかった仮設住宅の人達と私達の距離も回を重ねるごとに縮まって、お互いの顔や名前も覚え、今では私達が訪問するのを

楽しみに待っていて、帰る時には「次はいつ来るの？」と言って下さるまでになりました。

現在私達が訪問している仮設住宅は 5 カ所。規模の大きいものは戸数 74 戸から小さいものは 2 戸という事です。日中ほとんど人の来ないような、海が見える丘の上にひっそりと建っている所もあります。そのような仮設住宅の方ほど、訪問した私達とお話をするのを本当に楽しみに待っていて下さいます。そのような様子を目にする時、「来て良かった」と思うと同時に、東日本大震災の被害の大きさと無情さを改めて強く感じさせられ、何とも言えない気持ちになります。

今年になって仮設住宅から転居する人達が出始めました。この人達は、村での生活を断念して他の場所に引越すか、村で用意する災害公営住宅に住むか、あるいは自己資金で住宅を建設する自立再建住宅に住むかという選択をしました。どれを選択するにしても本当に難しいことだったそうです。災害公営住宅と自立再建住宅の建設は、災害住宅の建築と東京オリンピックの決定による建設ラッシュによって、供給が追いつかず工期が大幅に遅れ、工賃の大幅アップのためにやむ無く再建を断念する人達まで出ております。現在、仮設住宅から災害公営住宅などに転居した人達と色々な事情で転居することが出来ない人達との気持ちのギャップや、震災直後の被災状況の調査で自宅が一部損壊の診断をされて仮設住宅に入居出来なかった人達との支援の度合の違による心のわだかまり、あるいは災害公営住宅などに転居することが出来たとしても、新しい隣近所にどうしても慣れない人達への心のケアなどが必要になっております。また、仮設住宅自体も耐用年数が三年位なので、建物全体が歪んできており、天井と壁が離れかけているようなところもあり、この冬の寒さが心配されます。

福島県では、東京電力福島第一原発の放射能漏れ事故による汚染水処理作業や使用済み核燃料の取り出し作業の遅れや放射線被曝による健康不安、あるいは再度原発事故が起きて避難を余儀なくされるのではないかという不安、そしてこれは宮城県や岩手県でも同様ですが、自宅や仕事場そしてインフラの損壊とその復旧の遅れによって住み慣れた町や村へ戻りたくても戻れないという状況が被災地のいたる所で見られ、生活再建の計画がまだまだ立てられないという不安があります。

教会・伝道所の建っている町やそこに住む人達が被災したので、その復旧が終わらなければ教会・伝道所も立ち直ることが出来ません。全国の皆様には、これからも東日本大震災の被災者支援の働きのために温かいご支援とお祈りを続けて賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。(2014 年 11 月)